

第3回白馬村食育推進会議 会議録（要約）

召集年月日	平成24年4月26日（木）午後3時			
召集の場所	白馬村役場 302会議室			
開閉会の日時 及び宣言	開会	平成24年4月26日（木）午後3時	副会長	篠崎久美子
	閉会	平成24年4月26日（木）午後4時	副会長	篠崎久美子
出席者数	委員数 16名の内 出席者12名			
出席委員	職名	氏名	職名	氏名
	委員	斎藤 都	副会長	篠崎久美子
	委員	飯澤裕美	委員	田中みつる
	会長	松沢正猛	委員	中山晴隆
	委員	福島和子	委員	松澤忠明
	委員	矢口高士	委員	太田昭子
	委員	横山秋一	欠席委員 塩嶋久美子、武田進、 岩井良三、平林豊	
	委員	松澤文子		
事務局	住民福祉課長	倉科宜秀	住民福祉課 保健介護係長	津滝明子
			住民福祉課 管理栄養士	下川 玲
傍聴者	なし			

1. 開 会

〔篠崎副会長〕 開会を宣言した。

2. あいさつ

〔松沢会長〕 第3回協議会への出席に対しお礼を述べるとともに、本計画のみで食育という奥の深いものを全て集約させることは難しいが、計画案として今回の会議で一つのまとめができればと思う。活発な意見を求めたい。

3. 協議事項

(1) パブリックコメント結果について

〔議長：松沢会長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：津滝係長〕

協議事項に入る前に、4月からの新年度体制にともなう人事異動により、資料1のとおり委員の異動があったのでご紹介する。

前回会議で協議がなされたパブリックコメントについて、提出意見がなかった旨実施結果について報告した。

〔議長：松沢会長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めたが、特になく次の協議へ進んだ。

(2) 計画について

〔議長：松沢会長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：津滝係長〕 別綴資料 計画（案）により、前回会議において各委員から出された意見を反映し修正した旨説明。なお、委員は平成25年12月末までの委嘱となっており、来年度1年かけてより現状・課題に即した具体的な食育推進を図っていきたいと考えている。今年度各団体・組織の中でそれぞれ食育の推進に取り組み、来年3月にそれぞれから今年度の事業報告を受け、平成25年度に向けての計画案を出し合っていければと考えている。計画（案）について、変更等ないようであれば、資料3のとおり委員会として会長から村長へ答申書を提出したいと考えている。

〔議長：松沢会長〕 事務局からの説明に対して意見を求めた。

〔田中委員〕 今後の食育推進全体につながる計画案になっていると思う。具体的な取り組みや今後の予定、見通しはどのようになっているのか。

〔議長：松沢会長〕 田中委員からの質問に対し、協議事項（3）にも関わる内容であることから、次の協議事項へ進んだ。

(3) その他

〔議長：松沢会長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：下川〕 資料2に基づき、今年度予定している行政主体の食育関連事業等について説明した。

〔事務局：津滝係長〕 前回会議の中で地産地消の「地産」については、より内容を密にした推進を図っていきたいというご意見をいただいたが、その点については今年度観光農政課が策定予定の「白馬村地産地消促進計画」の中で重点的に盛り込んでいきたいと考えている旨説明した。

〔篠崎委員〕 計画（案）の中では、年次ごとに重点的な取り組みを定める等計画的な推進に努める旨記載されているが、計画策定にいたるこれまでの会議回数を含め、次回会議が年度末であるということで、長い期間各団体に任せる形になってしまう。計画策定後、さらなる食育推進を展開していくにあたり十分な回数であるのか。

〔飯澤委員〕 資料2については事務局でまとめた行政を中心とした食育関連事業計画のみであり、各委員の属する団体・組織が共通目標を持ちながら計画を推進していくことが重要なのではないか。例えば食生活改善推進協議会による料理教室の中で朝食習慣を進める健康教育を取り入れたり、地場産野菜を積極的に使用する等、協力・連携可能な事業の展開について本会議で意見交換がなされるとよいと思う。

たとえすぐに新規事業を展開するに至らずとも、既存事業の中で各団体で連携を図りながら内容を充実させていき、次回会議ではそれぞれの取り組み事例や今後につながる課題等について報告・検討するとよいと思う。また、白馬らしさを踏まえた事業展開についても、事務局だけでなく各団体それぞれで実現可能な事業を検討していくことも重要であると思う。

〔田中委員〕 事務局はあくまで連携調節役であると考え。各団体それぞれが主体的に取り組み、その中で分科会を設ける等して、それぞれが関わりを持ちながら推進していければよいと思う。

〔福島委員〕 白馬村における健康上の問題点は何なのか。村全体で目指していく食育推進の方向性があるとよいと思う。近年、青年期を中心とした年齢層に対する村からの情報が希薄化しているように思う。無線放送のない家庭も増えており、住民全体に対する情報伝達手段の整備も必要であると思う。郷土料理を伝えることのみが食育ではなく、直売所に出された地場産物を使って健康情報の提供や食育に関する広報・PRを提供することもよいのではないか。

〔事務局：下川〕 白馬村における健康上の問題点は、これまでの会議や計画（案）にも記載したとおり、血糖値が糖尿病境界型となっている方の増加と、血糖値の平均値分布が上昇傾向にある点等が挙げられる。これらは国民健康保険被保険者の特定健診結果のみではあるが、本村は食事を提供する営業事業主が多く、食生活を中心とした生活習慣の不規則化がみられること、観光地である本村は人口規模の割にコンビニ・飲食店等が多く存在し、手軽に食事・間食をとることが可能である環境にあること、車を使う機会が多く運動不足となっている方が多いことなどが生活背景として考えられる。食事を中心とした生活習慣改善と住民に対する意識変容・適切な情報提供と判断力の形成も大きな課題であると考え、すぐに結果を出せるような得策を見出すことは困難であると思う。さまざまな場や機会を通してアプローチしていきながら、幼少期からの食に関する正しい知識と行動力の形成をはじめ、家庭や地域全体に対する食育推進を進めていく必要があると考えている。

〔太田委員〕 子ども達の食生活の現状をみていると、やはり子どもの食事は家庭の食事に因るところが

多いように感じる。例えば朝食を摂取して登園する児は多いが、朝食内容としてはご飯に比べてパンの場合が多く、園の給食献立においてもパン食の方が子ども達の反応・食べがよいこと、反面、和食で使用されることの多い食材は子ども達にとって馴染みが少なく、給食での食べが悪いといった、家庭での食経験の偏りや狭さが子どもの食習慣・嗜好にあらわれていることも懸念される。これを受けて、園の給食では少しでも和食を重視した献立作成に努めているが、子どもへの食育という観点では健やかな成長のための食による栄養的側面だけでなく、食に携わる「人」とのかかわり、感謝の意識をもつといった教育的側面も重要であると思う。

〔中山委員〕 園では食育に特化した取り組みが十分にできていない現状もある。その一方で、日常の給食時間による集団生活を通じた食育と、それによる子どもの成長もまた多く見受けられる。毎週火曜日を弁当の日として家庭と園との食のかかわりを持っており、今後も食を通じた子どもの成長、食育活動をより一層展開していきたいと思う。

〔矢口委員〕 近年食育が叫ばれているが、「いただきます」というあいさつの本来の意味を十分に理解したうえで、推進を図っていくべきであると考え。また近年では健康を過重視・先導させた食の考えから、おいしさ・食の楽しささえ犠牲にするような食をすすめる方向にある情勢も懸念される。青年期を中心とした行政に関わらない世代については、インターネット等メディアを通して情報収集を行っていても、地元根付いた情報は入手しづらいと思う。今後、地元ならではの情報提供が一層求められると思う。食育について、幼少期からのかかわりとともに多面的なアプローチが必要であると考え。

〔松澤委員〕 事務局からの説明にもあったように今年度食生活改善推進協議会では、公民館事業を各回参加者募集型とし、広く住民に食改の名前と活動を知ってもらうよう考えている。こうした活動の中で、地場産物の安全性を伝え、積極的に利用しながら、幅広い世代に食・調理を通じたアプローチができればと考えている。

〔斎藤委員〕 本会議へは団体に属さない一般住民としての立場で参加したが、食に関する取り組みは初めて知ったものも多く、日ごろから食育に携わっていない一般住民に対してどう推進していくかが、今後の課題であると思う。

〔横山委員〕 学校と家庭という子どもの環境面而言えば、栄養士による栄養管理された給食の提供がなされる学校とともに、家庭での食も大変重要であると思う。一方で、食の安全性について高い関心を持った保護者も多い世代であることから、今後PTA主催の食育に関連した講演会や研修会を提案・実施していくこともよいと思う。

〔議長：松沢会長〕 本委員会を通して、食に携わるいろいろな立場・方面との間で共通理解を持ちながら情報交換ができた。結果を求めるだけでなく、こうした情報交換の場としての会議の位置づけもとても有意義であると考え。

〔篠崎委員〕 次回会議を年度末まで持ち越すことなく、各団体における進捗状況や状況確認、意見交換の場として年度内に数回会議を持つとよいと考えるがいかがなものか。

〔事務局：津滝係長〕 要綱等の問題もあるが、講習会や連絡会議としての意見交換、状況確認の機会については検討していきたい。

〔議長：松沢会長〕 委員会では会議形式だけではなく、委員の資質向上や連携強化を図るための勉強会、たとえば収穫体験や講習会等を通した委員同士の意見交換を図る場を設けていくこともよいと思う。今後このようにして各団体で連携しながら、食育活動を展開していければと考える。

なお、答申書については本日出された意見についても踏襲された内容であることから、事務局からの説明通り会長から村長へ答申したい旨説明があり、委員会として答申することです承された。

〔事務局：倉科課長〕 事務局としては、明日庁内会議にて本計画（案）を提案し、これまでの会議で出された意見を踏まえた食育の推進を図っていきたいと考える。計画を作ればよい、作っただけで終わることなく、施策や取り組みの見直し・充実を図り、行政はもちろん各団体・委員それぞれにおいても一層の推進を図っていただきたい。

4. 閉 会

〔篠崎副会長〕 閉会を宣言した。

終了 16:00

以 上